

番 号	3-15	受付年月日	令和3年12月8日
件 名	陳情書 毘沙沢林道の全線舗装と常時除雪、町道編入をお願いする件	陳 情 者	布沢区長 小林 幸夫
紹介議員		付託委員会	経済文教常任委員会

陳情全文

令和3年12月8日

只見町議会議長 大塚 純一郎 様

布沢区長 小林 幸夫

陳情書

毘沙沢林道の全線舗装と常時除雪、町道編入をお願いする件

平素は布沢川流域の振興対策にあたり特段のご支援をいただき感謝申し上げます。さて、毘沙沢林道の舗装については、長年陳情を重ねておりますが、平成30年、令和元年、令和2年の3回に分けて急坂箇所300メートルの部分舗装を施工していただいた後は中断されています。

毘沙沢林道沿線には平成5年頃から4世帯5人の方々に移り住み活躍されています。この間30年近く圧雪作業と春先除雪に甘んじなければならぬ実態を、一日も早く解消していただきたく区民連署をもって陳情申し上げます。

我が布沢集落に限らず、只見町内全ての集落が「人口減少対策」は待ったなしの課題です。一日も早く人口減少に歯止めをかけ、持続可能な町（集落）の姿を描くのが、町政の最大の課題ではないでしょうか？

この中で、最も重要なことは、『只見町はどんな町をめざすのか？』といった将来像を示し『未舗装で、冬期除雪が出来ていない集落は、何年後には解消する』といった住民の身近な問題や課題に対し、その施策の方向性や目標をより具体的に指し示し、住民の暮らしと意思に寄り添い住民がそこに住み続けることへの自信と誇りを失わせない努力が、政治や行政の最も重要な役割と私たちは考えています。

■ 毘沙沢林道については、昭和44年8月12日の豪雨災害時に、町は多額の投資をもって集落移転された経緯があります。このことが舗装や常時除雪の障害となっていると耳にしますが、町は当時集落移転後の土地利用方針を町民や不動産業者、新住民にしっかり説明しなかったところに問題があります。

しかし、あれから半世紀の歳月が流れ社会情勢は大きく変化しています。どのような経過があろうとも、全国有数の豪雪地帯で除雪もされない劣悪な生活を強いている現実、一日も早く解消していただきたいと思えます。

■ わが布沢集落も最大の課題は、「人口減少対策」です。人口減少にストップをかける『第二の故郷づくり運動』に取り組んでいます。その対策の第一が毘沙沢林道沿線居住者の生活環境の充実で、林道の全線舗装と常時除雪路線への編入です。居住者の高齢化の中で安心、安全の確保と定住の持続性を図る上で喫緊の課題です。

■ I・U・Jターナー者受入や関係人口受入れ対策の一環として、別荘をお持ちの「二地域居住者」との「つなぎ直し」を行い、交流を深めようとしていますが、やはり除雪路線でないことが大きな隘路となっています。

二地域居住者は関係人口受入の一番身近で可能性のある方々であり、町当局は本腰を入れて取り組んでいただきたいと思えます。

■ 沿線には10数戸の別荘をお持ちの二地域居住者がおられ、中には『半農半X』での定住を検討されておられる方、テレワーク活用による布沢への定住を検討される方など、従来にはない新しい動きがありますが、冬期除雪路線でないことが大きな障害となっています。過去の経過がどうあれ町は新しい時代変化を踏まえ、毘沙沢林道の整備方針や沿線住民の暮らしをどう守るのか、基本方針を示していただきたいと思います。

■ 更に、町の人口減少対策としてのI・U・Jターン者及び関係人口受入れに対する具体的な考え方や施策も示していただきたいと思います。

■ 毘沙沢林道沿線に暮らす住民と二地域居住者が利用する道は林道ではなく町道であると思います。早急に町道認定をお願いします。

以上の観点から、毘沙沢林道の、①全線舗装の早期施工、②常時除雪路線への編入、③町道への編入、の早期実現を重ねてお願い申し上げます。